



出羽小学校6年1組 R8. 4. 21 NO. 8

より質の高い1%の赤をつくるために・・・



いよいよ4月になり、紅花の種をまく季節になりました。

総合では5年生の学習の続きが始まりました。長瀬さんから、「紅花の種は『清明』4月5日にまくのが最もよいこと。出羽地区では4月20日ごろ、4月30日までにはまくとよい」ことを教えて頂いていました。5年生の時の総合ファイルをもとにふり返り、紅花を育てるための調べ学習を始めました。

より質の高い1%の赤をつくるために より質の高い紅花を育てよう

() 月 () 日 名前 ()

☆調べること

テーマ	疑問	解決したらO
土	どんな土?	
プランター	どんなプランター?	
設置場所	どんな場所?	

紅花を育てるにあたり、土、プランター、育てる場所の3つの視点で調べ学習を行いました。

【どんな土?】

植物を育てるのあたり、最も重要なのが「土」です。

- 乾燥した「砂質土壌」
- 水はけのよいたい肥
- 腐葉土を混ぜた土
- PH6.0~8.0の中性から弱アルカリ性の土

が紅花にとって良い土のようです。湿った土を使うと、「炭疽病・いちょう病・さび病・立枯病」にかかってしまうようです。もし、pHを調節したい場合は、「苦土石灰」を混ぜるとよいことも分かりました。

【どんなプランター?】

5年生の時点で、紅花の根は地面に垂直に伸びるので、深さがあるプランターが良いことは分かりました。さらに、紅花は20cm間隔で種を植えるため、幅も眺めがよいことが分かりました。湿ったままだと病気にかかるので。排水穴は大きめの方がよいとのことでした。

【どんな場所?】

日当たりよし 風通しよし 水はけよし かんそうしている が 最高の環境

紅花の最大の敵は、湿気。湿気の多い場所とはとにかく避けることが分かったようです。



出羽小学校6年1組 R8. 4. 28 NO. 11

より質の高い1%の赤をつくるために・・・

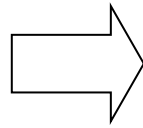
23日（木）の5校時に、長瀬さんの指導の下、紅花の種を植えました。



紅花の種まきは大きく4つの作業がありました。

【Hさんの学習プリント】

- ①プランターに土を入れる。
- ②紅花の種をまく。
- ③たっぷりと水をまく。
- ④新聞紙をかぶせる。



紅花の種うえの手順と気をつけることを思い出して記録しよう

作業	気をつけること
まず、土を入れる	上から2-3センチくらい入れよう
次に、種を植える	うねを作って、種を10センチくらいおいておく
そして、水やり	たくさん水を入れてかわいた土をまた入れる
最後に、新聞紙をかぶせる	風や直射日光を避けるように、新聞紙をかぶせる



長瀬さんの予想だと5月1日に発芽するそうです。

紅花は半夏一つ咲きといわれ、7月初旬に花を咲かせます。それは、昼の時間が関係しています。

紅花の開花条件は、**昼の時間が13.5時間以上**です。その13.5時間以上になるのが、7月初旬なのです。

子どもたちが植えた紅花も「半夏一つ咲き」になるのでしょうか。楽しみみです。



出羽小学校6年1組 R8. 5. 11 NO. 13

より質の高い1%の赤をつくるために・・・



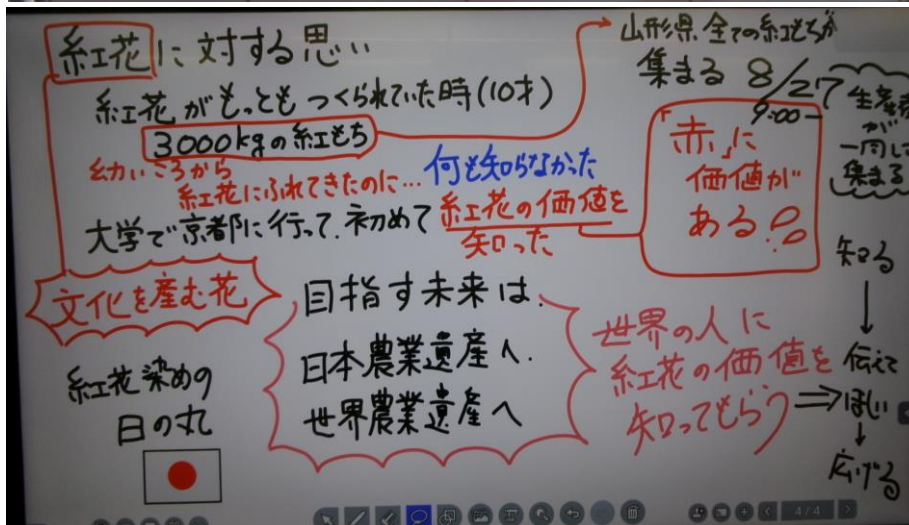
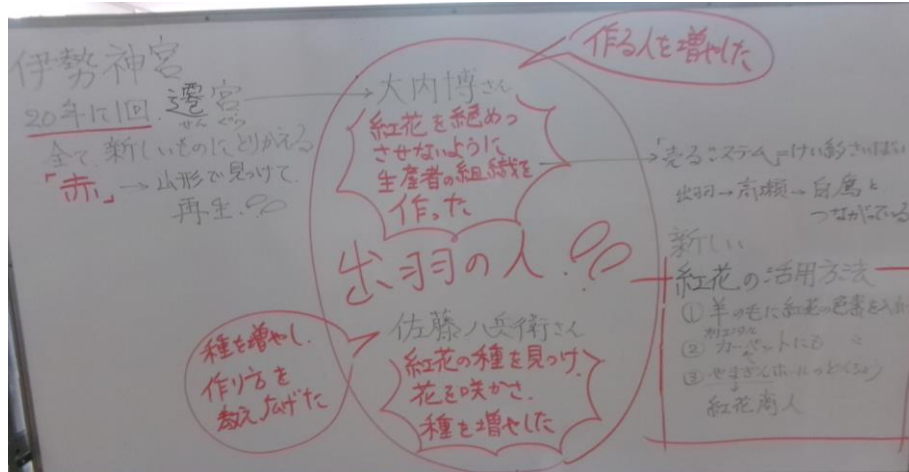
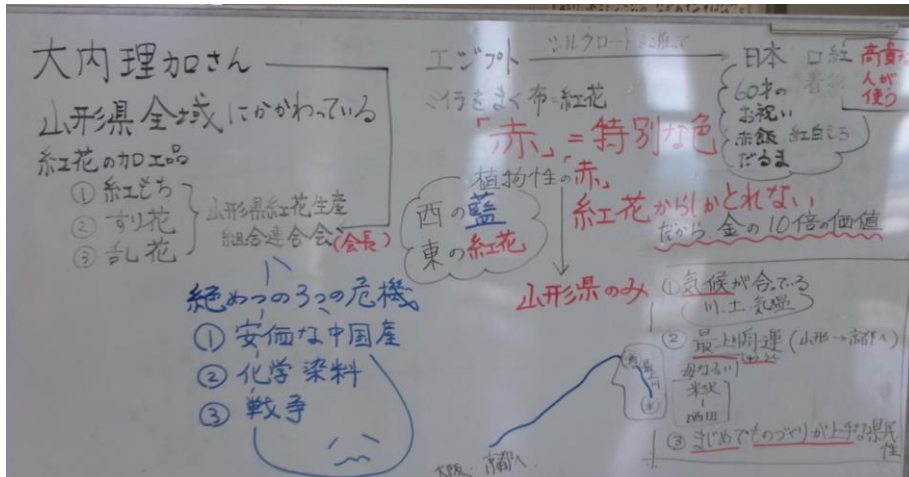
5月1日に芽を出し、ゴールデンウィーク中も元気に育った紅花。先日、種のスケッチをし、今回は、芽をスケッチしました。①におい ②かたさ ③形 ④さわりごち ⑤大きさ の5つの視点で紅花を観察します。紅花をよく知るといことはもちろんですが、紅花に愛着がわくようにという思いも込めた学習です。紅花の葉をよく見ると、小さな葉の時は、毛が生えていて、葉先はギザギザです。大きくなると、毛がなくなり、葉先も丸くなります。どうしてこのような変化があるのでしょうか。このような視点で紅花について調べることも面白そうです。

13日(水)の3校時に、大内理加さんに来校していただき、紅花への思いについてのお話をお聞きます。長瀬さんと共通することはあるのか、違うことはあるのか、大内さんは、紅花の何に魅力を感じているのかなど、しっかりと話を聞いてほしいと思っています。



出羽小学校6年1組 R8. 5. 19 NO. 17

大内理加さんのお話をお聞きしよう～紅花にかかわる人との出会い～



5月12日に大内理加さんに来校していただき、紅花への思いや紅花の魅力についてお話をお聞きました。大内さんは、紅花の「赤」に魅力を感じていました。植物性の「赤」は紅花からしかとれないこと、山形県が紅花の産地として残っている理由などについて教えていただきました。また、伊勢神宮の式年遷宮（20年に1回行われる神様の引っ越し）で紅花の「赤」が使用されていること、そして、その赤を絶やさないようにするために、大内さんの祖父である大内博さんが生産者の組織を作ったことについても教えていただきました。

最後に、紅花に対する思いです。紅花は文化を生む花であること、そして、その「赤」はとても価値があること。その価値を世界の人に知ってもらうために「世界農業遺産」登録に向けて頑張っていること。これが大内さんの思いでした。

そして、長瀬さんの同じように、



「深く知って、伝えて、広げてほしい」と子どもたちに語り、締めくくりました。

大内さんは、紅花染めの日の丸を作ることも夢だそうです。



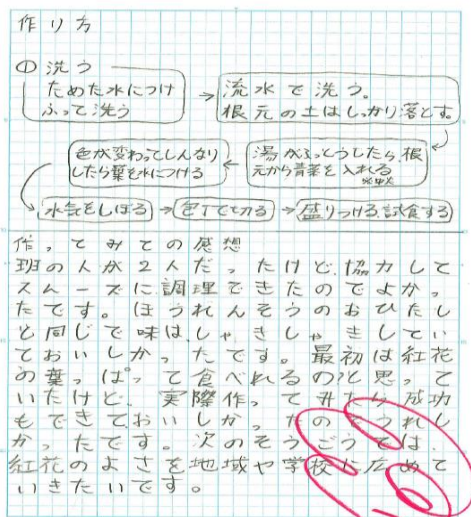
出羽小学校6年1組 R8. 5. 22 NO. 18

間引きした紅花の葉を食べよう~どんな味がするのか?~

19日(火)の5時間目に紅花の苗の間引きを行いました。「紅花を育てよう」という資料に「間引きした苗はおひたしたみそ汁の具にすることができます。」と書いてあったので、おひたしにすることにしました。5年生の家庭科の学習で「ゆでる」の学習をしていたので、子どもたちはなかなかの手際よさでした。



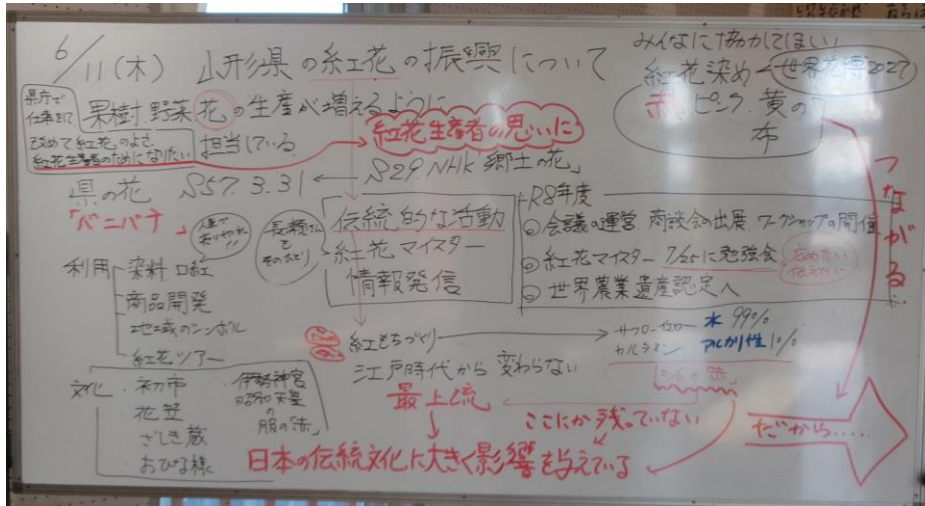
【Yさんの自主勉強ノート】



これまで紅花の歴史や出羽の宝である理由、長瀬さんや大内さんの思い、紅花染めなど様々な視点で紅花について知ってきました。「食」という視点でも紅花に触れることができ、さらに深く紅花について知ることができました。

6月11(木)には、紅花にかかわる人のお話をお聞きしよう第3弾として、山形県園芸大国推進課の高橋課長補佐さんに来校していただき、県として紅花をどう考えているのかということについてお話をお聞きする予定です。

高橋志津さんのお話をお聞きしよう～紅花にかかわる人との出会い3～



紅花にかかわる人との出会い第3弾。今回は、山形県農林水産部園芸大国推進課高橋志津課長補佐です。高橋さんは約30年間、紅花に携わるお仕事をしてきた方です。そんな高橋さんから県の取り組みについてお話していただきました。

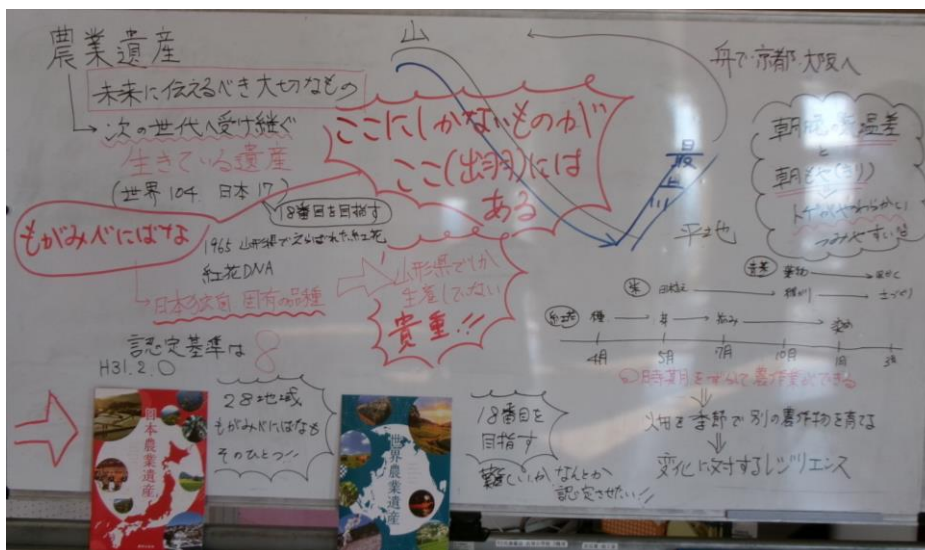
☆山形県の紅もち作りは江戸時代から変わらない方法であり、「最上流」と言われていること。

☆紅花は初市や花笠、京都の座敷蔵、伊勢神宮や昭和天皇の着物など、日本の伝統文化に大きく影響を与えていること。

☆「もがみべにばな」は日本独自、固有の品種であり、山形県でしか生産されない貴重な花であること。

そして、「ここにしかないもの（もがみべにばな）がここ（出羽地区）にある」そんな地域に住んでいることに誇りをもってほしいと語っていただきました。

最後に、高橋さんが取りつかれた紅



花の魅力…それは、「紅花生産者の思い」でした。長瀬さんのような熱い思いをもっている生産者の方のためにになりたいという思いをもって仕事をしているということでした。1時間のお話でしたが、真剣に話を聞く子どもたちの姿が印象的でした。



より質の高い1%の赤をつくるために・・・

ついに紅花が開花し始めました。紅花は日照時間が13.5時間を超えると開花し始めます。昔はその時期が7月上旬でその時期を「半夏生」といいます。この時期に花を咲かせるので「半夏一つ咲き」と言われます。昨今は、温暖化の影響で、6月下旬になってきているようです。



そして、昨日、長瀬さんに来校していただき、「花摘み」と「紅もちづくり」についてご指導いただきました。

花摘み

左手でつぼみの部分を押さえて、右手で花びらをもち、横に引っ張ります。

※花が扇形もしくは少し赤い色が入ったところが摘みごろ



紅もち作り

①花振り（はなぶり）

花びらを水でもみながら洗います。

②花寝せ（はなねせ）

発酵（酸素を取り入れ、赤い色素を作ります）させます。

③搗き（つき）

ついて発酵を促します。



④成形

団子状に丸めてつぶします。

⑤乾燥

2～3日、乾燥させます（雨天時には冷凍庫に入れます）

1%の赤を作るためのもっとも重要な作業です。

自分のプランターの紅花は責任をもって、花摘みをしていきます。